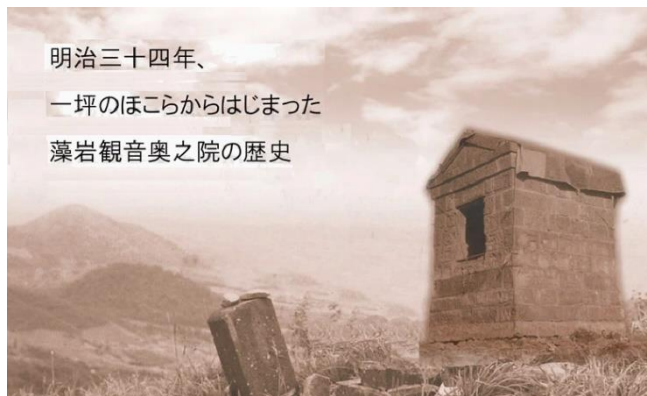


# 折々の散歩道

## 藻岩山三十三観音

藤井力夫

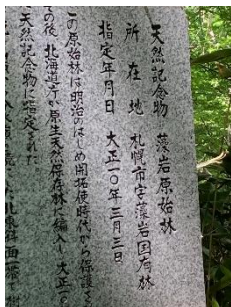
2022年5月27日



<https://sapporo-kannonji.com/okunoin.html>

### 藻岩山

アイヌ民族では、「インカルシュベ」と呼ばれていた。「いつも登って展望をすところ」という意味。アイヌの人たちにとって聖地で、神の山であった。異変があるときには、「カムイシュネ」（神の炬火）が観察されたという。山鳴りがするような時は、大吹雪や、疱瘡など流行の予兆として警戒。事実、疱瘡が部落で流行しだすと、この山に逃げ込み、神の加護を願ったとされる。（更科源蔵『アイヌ伝説集』、1981、p.158.）



1876年（明治9年）、山鼻地区（現在の南6条から南23条あたり）に、旧仙台藩、津軽藩など東北各県から旧士族240戸、1114人が入植、開始。宅地は、一戸あたり150坪、耕地は、1500坪であった。

1881年（明治14年）、浄土宗新善光寺の初代住職・大谷玄超上人は、藻岩山を人々の労苦を安らげる一つの場となるよう、「西国三十三礼所」の観音・安置を思い立つ。4年後明治18年、札幌県令の許可を受け、檀信徒の協力のもと、山道を切り拓く。翌、明治19年6月1日、第1回山開きを開催。当初は、山道三十三ヶ所の樹木に観音絵図をかけた。

1900年（明治33年）、二代目住職・林玄松上人が、登山口付近に観音堂を建立。翌、明治34年、山道に、観音石仏を安置、山頂に一坪の石堂を建立した。





一番観音



EL.67m

紀の国 那智山 青岸渡寺、如意輪観音 313-399年

ふだらくや  
きしうつなみは  
みくまのの  
なちのおやまに  
ひびくたきつせ

意識： 寄せる波はインド釈尊、落ちる波は来世閻魔、ここは交点、青岸渡寺。あの世に来て、後悔する人がなんと多きことか。現世閻魔。



二番観音



EL.92m

紀の国 紀三井山 金剛宝寺(紀三井寺)、十一面観音 770年

ふるさとを  
はるばるここに  
きみるでら  
はなのみやこも  
ちかくなるらん

意識： 長旅ご苦労様、まずは水でも飲んで一休み、紀三井寺。あれもこれもではなく、これだけとは想うところを描きなさい。現世閻魔。



三番観音



EL.110m

紀の国 風猛山 粉河寺、千手観音 770年

ちちははの  
めぐみもふかき  
こかはでら  
ほとけのちかひ  
たのもしのみや

意識： 母なる大地、粉河寺。どこまで戻ればよいか、わかる人は幸せ。生き直せるということ。私は応援する。親と同じぞ。現世閻魔。



四番観音



EL.118m

和泉の国 横尾山 施福寺、千手観音 539-571年

みやまぢや  
ひばらまつばら  
わけゆけば  
まきのをづらに  
こまぞいさめる

意識： 深山路を歩いて、横尾寺。迷えば、眼を閉じ、耳を澄ましなさい。ノイズを落とすほどに、進む道が思い描けるであろう。現世閻魔。





### 五番観音



EL.140m

河内の国 紫雲山 葛井寺、千手観音 725年

まゐるより  
たのみをかくる  
ふぢゐでら  
はなのうてなに  
むらさきのくも

意訳： 藤かずら、頼み叶える、葛井寺。壱田、三世一身といえど、地震、凶作、天然痘。阻むを除く、聖武天皇開基、行基開眼。現世閻魔。



### 六番観音



EL.177m

大和の国 壱坂山 南法華寺(壱坂寺)、千手観音 703年

いはをたて  
みづをたたへて  
つぼさかの  
にはのいさごも  
じゃうどなるらん

意訳： 藤原京の真南、八角円堂、壱坂寺。前に見えるは律令国家、試みてこそ視野世界。鎮護は私、観音ぞ、思い描くを試みよ。現世閻魔。



### 七番観音



EL.193m

大和の国 東光山 竜蓋寺(岡寺)、如意輪観音 663年

けさみれば  
つゆをかてらの  
にはのこけ  
さながるりの  
ひかりなりけり

意訳： 明日香の丘に、塑像観音、岡寺。壱田に防人、厄除けは、私が担う。目覚めればすっきり、まずは、ぐっすり眠るがよい。現世閻魔。



### 八番観音



EL.207m

大和の国 豊山 長谷寺、十一面観音 686年

いくたびも  
まゐるころは  
はつせでら  
やまもちかひも  
ふかきたにがわ

意訳： 徳道上人、三途の川より戻る、長谷寺。閻魔大王より命ぜられ、何かの時、参りたくなる私の化身、三十三観音、設けよ、と。現世閻魔。





### 九番観音



EL.218m

奈良 興福寺 南円堂、不空羂索観音 813年

はるのひは  
なんゑんだうに  
かがやきて  
みかさのやまに  
はるうすぐも

意訳： 空しくはさせない、漏れなく救う、南円堂。萌える若草、君の胸。ふつつ燃えるを、行くがよい。朝日も霞み取り、後押しす。現世閻魔。



### 十番観音



EL.233m

山城の国 明星山 三室戸寺、千手観音 770年

よもすがら  
つきをみむろと  
わけゆけば  
うぢのかはせに  
たつはしらなみ

意訳： 金色に輝く、二臂観音、三室戸寺。宇治の川瀬は、白波たてて自ら光る。月灯りあればよし、内から燃えるを待つが良い。現世閻魔。



### 十一番観音



EL.236m

山城の国 深雪山 上醍醐・准胝堂(醍醐寺)、准胝観音 874年

ぎやくえんも  
もらさですくふ  
ぐわんなれば  
じゅんてい  
だうは  
たのもしきかな

意訳： 山に湧く聖水、得度の本尊、准胝堂。私は仏母、重罪たりとも、漏らさず救う。決めるはあなた、何処まで戻って、生き直す。現世閻魔。



### 十二番観音



EL.236m

近江の国 岩間山 正法寺(岩間寺)、千手観音 722年

みなかみは  
いづくなるらん  
いはまでら  
きしうつなみは  
まつかぜのおと

意訳： 地獄をめくり、朝には戻る、胎内観音、岩間寺。岸打つ波か、ここは山中、松風の音。天空がさざ波、君のこころ洗い去る。現世閻魔。





十三番観音



EL.266m

近江の国 石光山 石山寺、如意輪観音 747年

のちのよを  
ねがうところは  
かろくとも  
ほとけのちかひ  
おもいきしやま

意識： マグマなす石の上、大仏鑄造と同年開基、石山寺。あの世はあの世、この世を生きよ。敵しいが短い、生き直すを援す。現世閻魔。



十四番観音



EL.277m

近江の国 長等山 園城寺(三井寺)、如意輪観音 686年

いづゆるや  
なみまのつきを  
みるであの  
かねのひびきに  
あくるみづうみ

意識： 華の谷より降り、願い聞き取る、三井寺観音堂。諸行無常、波間の月。鐘の響きに朝迎え、君の歩幅で向かえと告ぐる。現世閻魔。



十五番観音



EL.294m

京 新那智山 観音寺(今熊野)、十一面観音 824-834年

むかしより  
たつともしらぬ  
いまぐまの  
ほとけのちかひ  
あらたなりけり

意識： 那智の真北、京にいながら今熊野、観音寺。鳥辺野に昔より立つ、衆生済度の仏あり。ここに来るは、汝自身を救うなり。現世閻魔。



十六番観音



EL.310m

京 音羽山 清水寺、千手観音 778年

まつかぜや  
おとはのたきの  
きよみづを  
むすぶところは  
すずしかるらん

意識： 音羽の山に滝三つ、掬ふは一つ、清水寺。功德、黄金、延命、試されて手を掬ふ。これだけはと結ぶところは、清々し。現世閻魔。





### 十七番観音



EL.324m

京 補陀洛山 六波羅蜜寺、十一面観音 951年

おもくとも  
いつのつみは  
よもあらじ  
ろくはらだうへ  
まゐるみなれば

意訳：念仏の祖師、空也上人、六波羅蜜寺。五逆罪なれど、六道の辻、六波羅堂に来る人ならば、この世を生き直すは、可なり。現世閻魔。



### 十八番観音



EL.335m

京 紫雲山頂法寺 六角堂、如意輪観音 587年

わがおもふ  
こころのうちは  
むつのかど  
ただまろかれと  
いのるなりけり

意訳：下京の町堂、山鉾巡行籤取り、六角堂。五感に我で六欲、まろやかなるは難しい。内なる私の願い聞き、励ますが、よし。現世閻魔。



### 十九番観音



EL.351m

京 霊鹿山行願寺 革堂、千手観音 1004年

はなをみて  
いまはのぞみも  
かうだうの  
にはのちぐさも  
さかりなるらん

意訳：上京の町堂、応仁の地、一条革堂。泥に染まらず育つ蓮の華。庭に咲くは浄土の世界、泥知る身なれば、感謝もひとしお。現世閻魔。



### 二十番観音



EL.377m

山城の国 西山 善峯寺、千手観音 1029年

のをもすぎ  
やまぢにむかふ  
あめのそら  
よしみねよりも  
はるるゆふだち

意訳：雨乞い、聴き取りし、西山善峯寺。山路に向かうが、西方から夕立晴れる。振り返れば、君が里、京、山城、大和さえ。現世閻魔。





二十一 番観音



EL.386m

丹波の国 菩提山 穴太寺、聖観音 705年

かかるよに  
うまれあふみの  
あなうやと  
おもはでたのめ  
とこゑひとこゑ

意識：厨子王救った、丹波の穴太寺。苦難の多い人の世、嘆くもよいが、まずは十声一声。待っている、発せよ、生きよ、君なりに。現世閻魔。



二十二 番観音



EL.399m

津の国 補陀洛山 総持寺、千手観音 890年

おしなべて  
たかきいやしき  
そうじじの  
ほとけのちかひ  
たのまぬはなし

意識：亀の背に立つ観音、補陀洛山、総持寺。悩めるものすべてを救うは、私の誓い。貴賤によって違えるはなし、君の頼みは。現世閻魔。



二十三 番観音



EL.404m

津の国 応頂山 勝尾寺、千手観音 724年

おもくとも  
つみにはのりの  
かちをでら  
ほとけをたのむ  
みこそやすけれ

意識：自然と対峙、箕面、勝尾寺。七転び八起、罪重くとも救うなり。見栄を張れば間違える。私には、ありのままを語りなさい。現世閻魔。



二十四 番観音



EL.418m

津の国 紫雲山 中山寺、十一面観音 593-628年

のをもすぎ  
さをもゆきて  
なかやまの  
てらへまゐるは  
のちのよのため

意識：依頼者、閻魔を銘記する、中山寺。三十三観音は、閻魔の依頼、現世の化身。後悔先に立たず、まずはここに参るがよい。現世閻魔。





二十五番観音



EL.432m

播磨の国 御嶽山 清水寺、千手観音 725年

あはれみや  
あまねきかどの  
しなじなに  
なにをかなみの  
ここにきよみづ

意訳：聖武天皇即位翌年行基に依頼、大講堂建立、播州清水寺。今を生きるは、壱田灌漑の技術。清水は、隔てなく君に届く。現世閻魔。



二十六番観音



EL.446m

播磨の国 法華山 一乗寺、聖観音 650年

はるははな  
なつはたちばな  
あきはきく  
いつもたへなる  
のりのはなやま

意訳：法道仙人、孝徳天皇勅命により建立、一乗寺。班田収受による国造り。耕すは君、四季の法。ともに描こう、華咲く浄土。現世閻魔。



二十七番観音



EL.461m

播磨の国 書写山 圓教寺、如意輪観音 966年

はるばると  
のぼれば  
しよしゃの  
やまおろし  
まつのびびきも  
みのりなるらん

意訳：書写上人、西の叡山に如意堂創建、圓教寺。はるばる来て登り始めた君に、山からの風。響きは経文の如く、調息に合う。現世閻魔。



二十八番観音



EL.470m

丹後の国 成相山 成相寺、聖観音 704年

なみのおと  
まつのびびきも  
なりあひの  
かぜふきわたす  
あまのはしだて

意訳：天への架け橋、身代り観音、成相寺。律による量刑、犯す前に語りなさい。君の苦悩と私の経文、響き合えば、浄土なり。現世閻魔。





二十九番観音



EL.479m

丹後の国 青葉山 松尾寺、馬頭観音 708年

そのかみは  
いくよへぬらん  
たよりをば  
ちとせもここに  
まつのをてら

意訳：馬頭忿怒の観音、若狭に鎮座、松尾寺。災いは私が砕く、君は生るを探る。昔から、千歳もここに、私を頼り、待つがよい。現世閻魔。



三十番観音



EL.497m

近江の国 巖金山 宝巖寺(竹生島)、千手観音 724年

つきもひも  
なみまにうかぶ  
ちくぶしま  
ふねにたからを  
つむこちして

意訳：天女が降臨、竹生島、行基が建立、宝巖寺。波間に浮かぶ蓄仏の島。灌漑による墾田稔り、収穫の俵積む船、夢をみる。現世閻魔。



三十一番観音



EL.506m

近江の国 姨綺耶山 長命寺、千手観音・十一面観音・聖観音 619年

やちとせや  
やなぎにながき  
いのちでら  
はこぶあゆみの  
かざしなるらん

意訳：天地開闢、湖東の島、太子が開基、長命寺。太子、「經典注釈」に続き、「天皇・国記」の編纂。しなやかに、柳のごとく。現世閻魔。



三十二番観音



EL.510m

近江の国 織山 観音正寺、千手観音 605年

あなたふと  
みちびきたまへ  
くわんおんじ  
とほきくにより  
はこぶあゆみを

意訳：太子聞く、人魚伝説、成仏願ひ、観音正寺。殺生どうする、十七条の憲法。尊き命、貰って生きる、感謝なしには歩めない。現世閻魔。



三十三番観音



EL.72m

美濃の国 谷汲山 華厳寺、十一面観音 798年

満願堂、過去

よろづよの  
ねがひをここに  
をさめおく  
みづはこけより  
いづるたにぐみ

意訳：三十三番、美濃の谷汲、満願堂、華厳寺。これまでの勝手な願い、納め置き。すっきりさわやか、苔より出る清水のごとく。現世閻魔。

観音堂、現在

よをてらす  
ほとけのしるし  
ありければ  
まだともしびも  
さえぬなりけり

意訳：奥羽会津の郡司、京からの帰途、開基、観音堂。過去を捨て、これだけはと願う君。谷汲の油、行く手を照らし続けよう。現世閻魔。

笈摺堂、未来

いままでは  
おやとたのみし  
おいづるを  
ぬぎておさむる  
みののたにぐみ

意訳：巡礼の命綱、ここに納める、笈摺堂。脱ぎて納むるは、昔の君のみならず、新たな再生。気負わず、たんたん歩むがよい。現世閻魔。



EL.519m

あとがき

藻岩山は、私にとって論文や連載執筆時、余分なものを削ぎたくて、ほぼ毎回、何度もお世話になった山です。今は、下肢血流の回復促進および健康維持のため、折りにつけ登るようにしています。三十三観音の縁起や詠歌について勉強でき、意識を試み得たこと、嬉しく思っています。石仏写真は、2022年3月から5月にかけて、散歩のうちに撮影しました。

西国三十三札所、各詠歌の意訳は、来世閻魔の化身として選ばれた三十三の観音という主旨に鑑み、現世閻魔としての位置をもつ観音が迷える者に語りかけたとする観点から、要点となるところを簡明に記すことを意図しました。

なお、現世閻魔との対話は、個人における内省への励ましであり、「内なる他者」との対話を問うものです。したがって、ここでは、「世間」の目は背景に追いやられ、なされた対話は、制約を受けつつも、人々における「自我」形成に効果したものと考えられます。

参考文献：／白洲正子(1974)：西国巡礼、駸々堂。／松原泰道(1980)：新釈・西国巡礼歌、禅的なうなずき、鴻盟社。／松原哲明(1986)：観音のこころ、西国巡礼の旅、佼成出版社。／吉田靖雄(1986)：行基と律令国家、吉川弘文館。／和田嘉寿男(1995)：御詠歌の旅、西国三十三札所をめぐる、和泉書院。／真保亨(2001)：地獄ものがたり、毎日新聞社。／かこさとし(2004)：暮らしをまもり工事を行ったお坊さんたち、瑞雲舎。／石井義長(2009)：空也、我が国の念仏の祖師と申すべし、ミネルヴァ書房。／山口辨清(2016)：観世音菩薩、西国三十三所霊場、大法輪閣。

2022年5月 藤井力夫